

講義コード	11C3115301	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	鈴木 一広	開講期	第2期
科目名	財務諸表論					鈴木 一広		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	企業の通信簿としての役割を持つ決算書・財務諸表（貸借対照表や損益計算書、キャッシュフロー計算書等）について紹介します。また、その開示制度や作成方法、これらの裏付けとなる考え方（会計理論）の基本を学習します。後半では財務諸表を利用する立場から、その見方や利用方法としての財務分析の基本を紹介します。								
到達目標	財務諸表（貸借対照表や損益計算書、キャッシュフロー計算書等）の作成方法の基本を知る。また、作成上の考え方（会計理論）の基本を論じられる。財務諸表の利用者側の立場から、財務分析の基本となる収益性や安全性、支払能力等の分析計算ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義では、60時間程度の授業外学修が必要となります。予習は不要です。講義後に該当する回の教科書を熟読し、内容をイメージ付け（理解）したうえで、ポイントととなる表現や算式を押さえるようにしてください。また、授業中に指示した練習問題を解答し、小テスト等の対策とすること。								
授業計画	【第1回】 決算書の種類とディスクロージャー制度 【第2回】 企業会計原則に基づく伝統的な利益計算構造の体系（発生主義会計や取得原価主義会計の考え方） 【第3回】 企業会計原則に基づく伝統的な利益計算構造の体系（固定資産の減価償却、引当金等などの考え方） 【第4回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系（収益費用中心観と資産負債中心観、概念フレームワークの考え方） 【第5回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系（金融商品の成果の把握や評価、収益性の低下による減損処理、連結情報） 【第6回】 財務会計の基本的考え方のまとめ 【第7回】 企業経営に即した決算書の見方の概要 【第8回】 企業の儲ける力（収益性）を把握するための方法 【第9回】 企業の収益構造を探るための方法 【第10回】 企業の財務体質を見て安全性を把握する方法 【第11回】 企業の成長性を把握するための方法とキャッシュフロー分析の必要性 【第12回】 資金と利益の関係性、資金の増減原則 【第13回】 企業の支払能力を見るための、資金移動表によるキャッシュフロー分析 【第14回】 キャッシュフロー計算書によるキャッシュフロー分析 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	期末試験（60%）、偶数回に実施する小テスト7回（30%）および授業への取り組み姿勢（10%）で評価します。								
フィードバックの内容	提出された小テストは添削の上、授業期間内に返却します。 期末試験の模範解答を試験終了後に配布します。								
教科書	『決算書入門コース TEXT』（大原出版（株））2017年、『財務分析コース TEXT』（大原出版（株））2017年、『財務諸表論 理論テキスト1』（大原出版（株））2018年、『財務諸表論 理論テキスト2』（大原出版（株））2018年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他									